

旅の夜風

高田 友

(一)

我が中高年の同志には、昭和四十年および昭和六十年に出来せし「吹原産業事件」および「投資ジャーナル事件」を記憶に留めらるるか。前者は自民黨總裁選挙の資金作りにかかはる大スキャンダルに發展し、連動して「黒い霧事件」を誘發、犯罪史上に名を留む。後者は、戦後最大といはるる詐欺事件なり。

世上騒がせたるは、一に、共に高名なる女性歌手の介在したるに據る。

「吹原産業事件」に關與したるは高石かつ枝、時に齡弱冠(twenty)。「投資ジャーナル事件」は倉田まり子二十五歳。いづれもいづれも、主犯より莫大なる利益供與を受け、如何なる對價を以て報いたりしやと興味津津たるものありき。

いづれもいづれも花樣年華の身を顧みず、自ら法に觸るるにはあらざりしかど、青雲の志を擲つて、潔く藝能界より引退す。ともに人をして魂を銷さしむる絶代の佳人たり。玲瓏の玉容を思ひ出づれば、照火にて見るを得ずなりぬるを惜む人甚だ多きも異とするに足らず。さのみにとどまらず、なほ悔まるるは、その歌唱力の傑出したるによる。兩人並びて高校時代の學業成績甚だ優秀なりきと傳へられ、デビューの頃より、話しぶりの聰明なること、アイドルに脳味噌なしの國民的常識とは劃然たる懸隔ありき。

それがし、倉田まり子の引退記者會見を當時テレビにて見たるを彷彿として思ひ出づ。如今に至るもその凜然たる話しぶりと物腰を忘るる能はず。藝能記者より意地悪なる質問を受けて、端正手を膝に置きたるまま、凄々切々蹶然と背を伸ばし、記者をまつすぐに見据ゑて、「私は知りません」と怯むことなき勢ひにて反撃し給ひし華奢なれど剛毅なる御姿、「こは何者ぞ」と忽ちに戀の擲となりたる記憶あり。

倉田まり子は引退して後、實業界に轉じ、自ら經營する研修ビジネスに成功して、吃驚し給ふなかれ、東京學藝大學特任教授を務めたり。

一方、二十年ほど遡る高石かつ枝は、その後、幸せなる結婚生活に入り、息はスーパーエリート道の道歩みてあり。

高石かつ枝は「旅の夜風」を歌ひてデビューしたりき。「花も風も踏み越えて」と始まる名高き歌なり。さは、昭和十三年の映畫「愛染かつら」の主題歌なれど、昭和三十七年に再映畫化せられ、このとき、映畫のヒロイン「高石かつ枝」の名にて主題歌の歌手を募

集せり。應募したる此人、當選して、やがてそのまま「高石かつ枝」を藝名とは爲したるなり。

日ごろ、インターネットにてその美聲を堪能するに、「何爲ぞ、歌のかくも巧みなる」と感じ入ること久しけれど、聞けば、幼時には童謡歌手たりしとぞ。宜なるかな、高尚なる歌ひぶり、天賦の才ありてのゆゑなりけむと痛み入るばかりなり。

第一聯のみ、歌詞を御紹介仕らむ。

花も嵐も 踏み越えて

行くが男の 生きる道

泣いてくれるな ほろほろ鳥よ

月の比叡を 獨り行く

(二)

「月の比叡をひとり行く」を思はする百人一首の歌あり。

難波江の筆の刈根の一夜ゆゑ

身を盡してや戀ひわたるべき

皇嘉門院別當の作。皇嘉門院は讃岐遷幸遊ばされし崇徳院の中宮にして、忠通女かつ兼實の異母姉。作者は女院に仕ふる女別當なり。

一首は兼實攝政右大臣の砌の歌合に招かれ、「旅宿に逢ふ戀」とて詠みたるなり。千載集に入集。

すなはち、旅に出でてたまさか邂逅したる男に誘はれ、今日を限りの戀に身を捨つるを厭ひて誘ひに應ぜざりし歌なり。言ふに及ばず、眞の邂逅にはあらで、歌合の席に戯れて作りたるなり。

「かりね」は「刈根」と「假寝」、「ひとよ」は「一節」と「一夜」、「みをつくし」は「滯標（水脈つ串）」と「身を盡し」の掛詞なり。「節」とは竹の「節」と「節」との間の中空部分を謂ひ、同じ漢字を宛つ。その短きを儂き一夜の邂逅になずらへたり。

それがし、この歌心に染むる所あり、高石かつ枝「旅の夜風」の曲にて歌はむがために、歌謡曲風に解題せり。冒頭に「旅の夜風」を織り込めり。願はくはインターネットに

《高石かつ枝 旅の夜風》と打ち込み、曲を聞きつつ、我が歌詞にて歌はれよかし。英譯を添へたり。

旅の夜風に誘はれて

假の契りを結べとは

明日は別るる儂はかなき宿世すくせ

徒あたなる身をや盡つくすべき

(註) 第三行のみ七五ならで七七なるは歌の歌詞に合はせたるなり。

We've met for the first time on a journey.

And yet you invite me to make love.

Tomorrow we must bid adieu once and for all.

How dare you tell me to give myself up to a transient love?

今一つ、小倉百人一首の歌を同じ曲にて歌ふを得べく翻案せり。

あはれとも言ふべき人は思はえて身のいたづらになりぬべきかな これただ 伊尹

戀の焰に身を焼けば

明日の我が身を知るや君

えしも忍びで穂に出づれども

空しかれとぞのたまへる

(註) 謙徳公藤原伊尹は兼家の兄、道長の伯父、花山院外祖父。

(註) 「思ほえで」は萬葉文法、後世の「思はれで」に該あたる。「え」は自發の助動詞

「ゆ」の未然形。

(註) 「穂に出づ」は、「戀の思ひの表に露はるる」を謂ふ。

My soul and flesh are burning for this unanswered love.

Left unchecked, what would become of me tomorrow?

Treat me with compassion, I beg you.

You seem to be laughing, saying, "That's none of my business."

(令和四年九月二十四日受附)